

地方創生★
政策アイデア
コンテスト2021



ドボクがツナグ学生と企業

～学生と企業・地域をつなげる新施策『暮らすインターン』の提案～

鳥取県内における事例を踏まえて

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



田中哲哉¹ 岩崎聡² 上田諒也² 森星斗³

¹鳥取大学院持続性社会創生科学研究科工学専攻一年

²鳥取大学工学部社会システム土木系学科三年

³鳥取大学工学部社会システム土木系学科二年

はじめに | ツナガードボクと暮らすインターン



2018年、当時鳥取大学大学院生の先輩が、地方建設業界の魅力を伝えるため、田中達と共にツナガードボクという学生団体を立ち上げる(現在20名)



活動を行い企業と関わる中で、メンバーは既存のインターンでは**地域の魅力**が伝わっていないことに疑問を持った…



田中はこの疑問に対し、授業の中の**移住体験施設での宿泊経験**や**地域おこし協力隊へのヒアリング**をきっかけに、「**暮らすインターン**」を構想する



目次

1

課題

- RESASやヒアリング等により把握した課題 -

2

解決案

- 学生主体のコミュニティ創出 -

3

活動記録

- ツナガリのアルバム -

4

実施分析

- 活動から視えた次のステップ -

5

展望

- 暮らすインターンシップ -

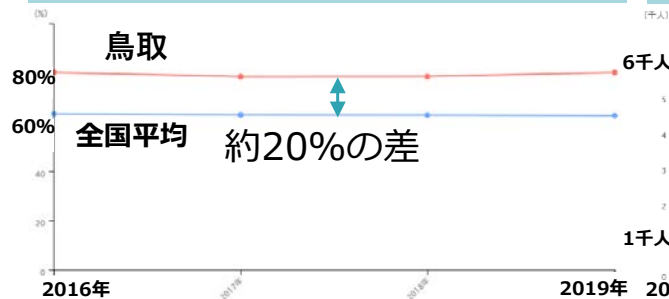
課題 | RESAS等により把握した鳥取県の課題

課題Ⅰ.若者の県外流出

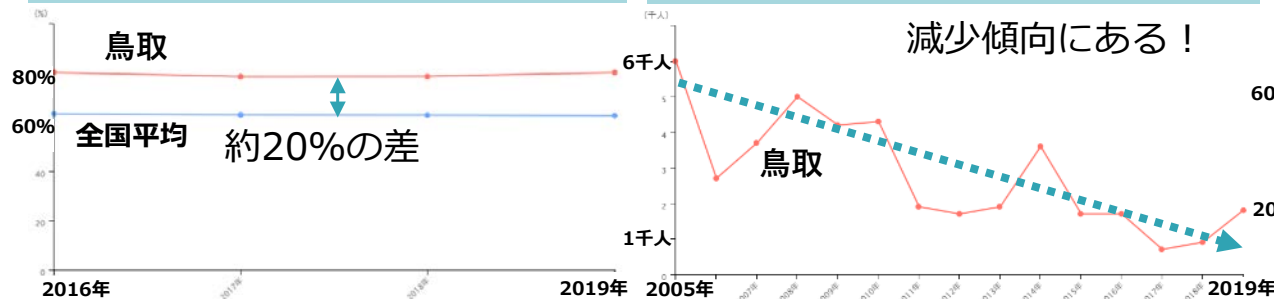
課題Ⅱ.建設業の人手不足

- 鳥取大学の理系学部（工学、農学）、米子工業高等専門学校の**県内就職率が低い**(鳥取県提供)
- 県内出身・県外進学者の**7割強**がUターンを希望。しかし県内就職を予定している者は**4割弱**(鳥取県提供)

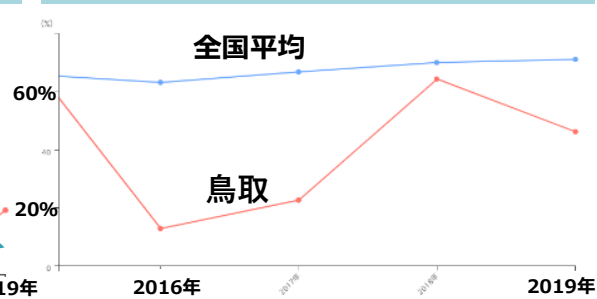
① 県外進学率の推移 (RESAS)



② 就職者数（県内）の推移 (RESAS)



③ 県内就職率の推移 (RESAS)



- ① 進学で鳥取県内に10人のうち**2人**しか残らない
- ② 鳥取県内就職者数が**減少傾向**にある
- ③ 鳥取県内就職率が全国平均に**比べて低い**

若者の県外流出が深刻 . . .

課題 | RESAS等により把握した鳥取県の課題

課題Ⅰ.若者の県外流出

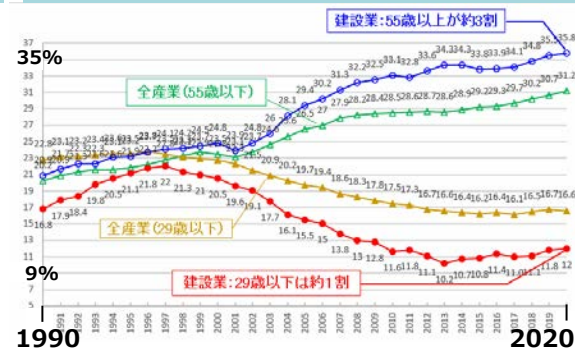
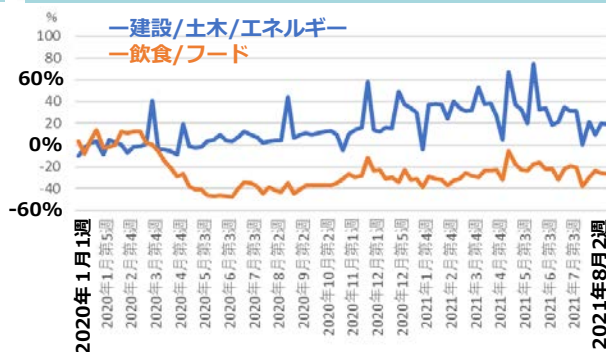
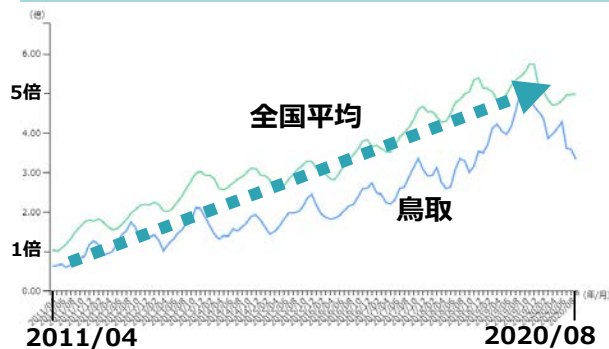
課題Ⅱ.建設業の人手不足

- 全国建設業では、H29年までに、H12年と比べて約24%の人口減少がみられる(鳥取県県土整備部)
- 鳥取県の建設業ではH29年はH12年と比べて全体で、約40%の人口減少がみられる(鳥取県県土整備部)

①有効求人倍率(建設・採掘の職業)(RESAS)

②鳥取県の求人情報数2019年同週比(V-RESAS)

③総務省労働力調査(鳥取県県土整備部提供)

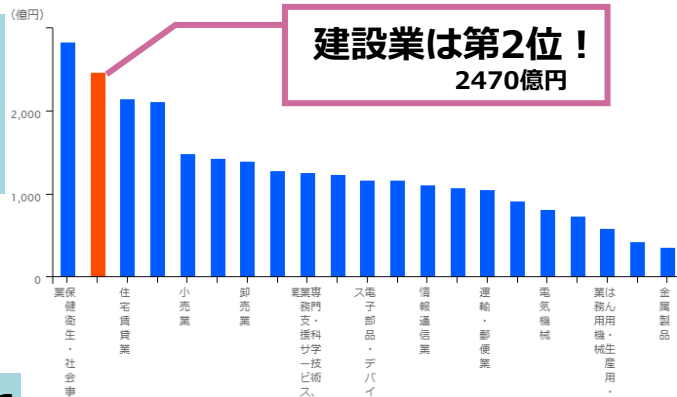


- ①鳥取県建設業の有効求人倍率は全国と同様に**上昇傾向**にある
- ②コロナ禍でも、他の産業と比較して影響が比較的**少ない**
- ③鳥取県建設業は高齢化の進展と若手入職者の**減少**が進んでいる

人手不足が深刻・・・

課題 | 鳥取県における建設業の重要さ

生産額_2015
(総額-産業別)
(RESAS)

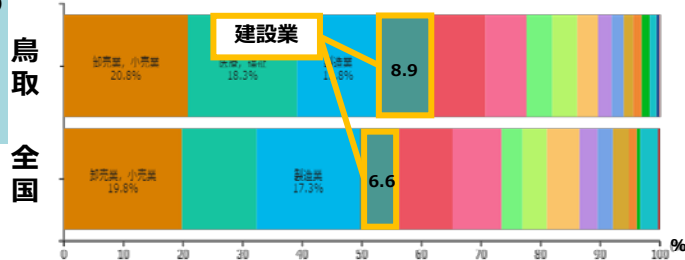


鳥取県県土整備部提供

インフラ整備
維持管理

除雪を行う地方建設業
地域基盤を支えます

従業者数_2016
(企業単位)
(RESAS)



鳥取県中部地震の記録誌

災害対応などの
応急対応

真っ先に駆けつける
地方建設業
安心安全を支えます

鳥取県の第二次産業の約**26%**を占める(RESAS)
平時も非常時も、地域を支える建設業

地方建設業は重要

課題 | 実体験やヒアリング等から分かった課題

学生	<ul style="list-style-type: none">➤ 鳥取に暮らしているのに鳥取の企業を知らない➤ 魅力的な企業が見つからない・分からない➤ 企業と学生の触れ合う場が少なく、企業を知るきっかけが分からない➤ 地方で働くイメージがわからず、選択を迷い、結果諦めてしまう
企業	<ul style="list-style-type: none">➤ 学生は仕方なく参加していて企業フェアを開いても、手ごたえがない➤ 大手就活サイトを利用しているが、大卒から応募はほとんどない➤ PR冊子を作成しても配布する機会があまりないため学生は見ず魅力を知ってもらえない

出典:令和元年度とっとり若者広聴レンジャー広聴活動

県内就職に興味を持つ学生は*アンケート調査により、**約4割**いることがわかっているが、情報が回ってこない故に、殆どが県外へと目を向ける。



圧倒的機会損失

*出典:鳥取県大学生の県内就職要因に関する研究
著者 児玉 莉奈

解決案 | 学生と企業を結び地方建設業の再構築

目的	<ul style="list-style-type: none">➤ 人手不足が深刻化した地方建設業のアップデート➤ 地域を作る地方中小企業が学生に目を向けられない現実から脱却➤ 学生・企業・地域間の距離を縮める➤ 就活における企業と学生のミスマッチの解消
解決案	学生と企業をつなげる学生主体の コミュニティの創出



ツナガルドボクが様々なイベントを開催！！

鳥取の地方建設業に魅力を感じたか定量的に分析しました

解決案 | ツナガルドボク発足の想い

- 本当にやりたい仕事を見つける
- 業界を知る
- 地域への参画
- 将来の夢を決める
- 就職後のギャップを減らす

学生

地方建設業

- 魅力を知ってもらえる
- 実際に就職してもらう事によって会社を維持できる
- 離職者を減らす
- 挑戦への後押し

行政

- 人口最小の県で先進的な取り組み
- 人口を増やせる
- 地域内循環
- 災害時にすぐ駆けつけてくれる業者を確保出来る



活動記録 | 学生と企業をつなぐコミュニティ



- 上写真:建設女子会 (右写真のクッキー:鳥取県障害者就労事業振興センター、とっとり建設☆女星ネットワークとの連携)
女子が建設業で働きやすい労働環境を目指したWS等、女性技術者と女子学生の交流



- 左写真:人事コミュニティ 中央2枚:馬野建設北条河川工事現場見学 右写真:地元中学校と協働
企業の人事、大学生・高校生と、様々な立場の人材育成の場を構築・提供して業界全体の底上げを図っている



活動記録 | 学生と企業をつなぐコミュニティ



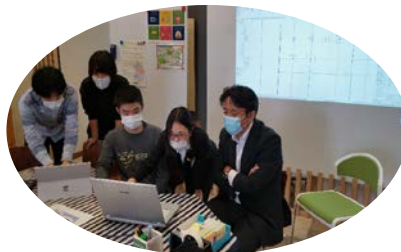
土木のツナガリin鳥取

・若手技術者を招いて学生との交流会を行った



広聴レンジャー

・学生の県内定着のため企業を巡った、NHKにも取り上げられる



逆インターンシップ

・企業側を大学にお呼びし、学生へ新技術の指導をお願いした



メンテナンスWS

・現場見学を行った

2018 2019

学生コンサルタント

・学生視点で企業の悩みを解決していく



2020

社会人メシ

・学生と社会人の交流を深め距離を縮めた



2021

公務員ワークショップ

・町役場の方々の仕事について学び話した。
・地域に寄り添う働き方を考えた



実施分析 | 3年間のツナガルドボク活動実績

2018-21のイベント 参加人数（概算）

	人数
学生	280
コンサル	60
ゼネコン	70
発注者	30

メディア掲載

協力して下さっている方々（敬称略）

井木組、美保テクノス、山陰都市開発研究所、シンワ技研コンサルタント、樹（旧鳥取資源開発）、サカモト、マツワ、サイトウコンサルタント、アサヒコンサルタント、SOT、大昌エンジニアリング、LASSIC、やまこう建設、アイコンヤマト、ヨナゴ技研コンサルタント、大協組、大和建設、懸樋工務店、エスジーズ（旧サンイン技術コンサルタント）、田嶋工業、徳吉薬局、流通、テカ-ポレーション（三朝館）、ファミリーナガ、寿製菓、富士ユニコン、さんれいフーズ、西谷技術コンサルタント、Roop's、フェリース、郡家コンクリート工業、ヤマタホールディングス、三光、大勇フリーズ、青翔開智中学校・高等学校、学生人材バンク、鳥取県障害者就労事業振興センター、ふるさと鳥取県定住機構、鳥取県測量設計業協会、鳥取県建設技術センター、とっとり建設☆女星ネットワーク、国土交通省、中国地方整備局、鳥取県庁、大山町役場、鳥取大学地域価値創造研究教育機構、小林潔（第106代土木学会会長）、松永昭吾（インフラ・ラボ代表取締役）、伊藤昌明（オリエンタルコンサルタンツ）、木村亮（京都大学教授）
計50以上

2018.12.11 『ツナガルドボク中国支部発足』朝日新聞

2019.05.24 『インフラ守る人々紹介』日本海新聞

2019.06.28 『学生がつなく県内企業と就活生』NHK

2020.12.21 『【プロ目線に触れる】鳥取大生ら運営「ツナガルドボク」学生対象にBIM設計コンペを開催』建設通信新聞
他多数

産・官・学（生）の連携による圧倒的機動力、学外へ学生主体のツナガリ創出

実施分析 | 社会人メシのアンケート調査

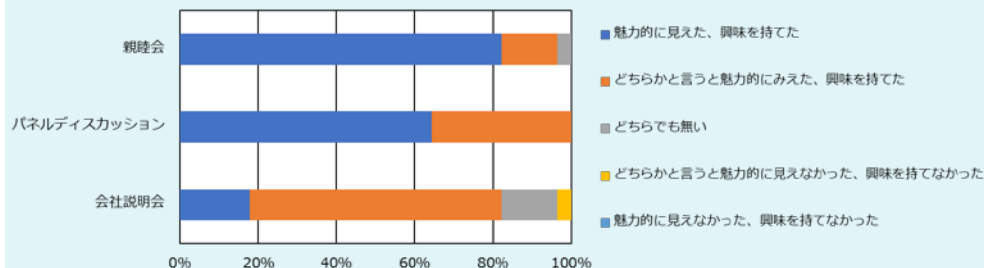
企画概要

- 会社説明会
- 若手社員や社長、学生とのディスカッション
- 親睦会（社員の方と会食）



膝を付け合わせ既存の会社説明では聞けない業界のリアルを知れる

結果



既存の会社説明と親睦会を通してでは、その企業が魅力的に見えた学生の割合には約65%もの差があった。(母数：28人)

考察

- 最近の学生は将来働く会社の職場の雰囲気を感じている
- 親睦会は会社の雰囲気をダイレクトに感じ取れる

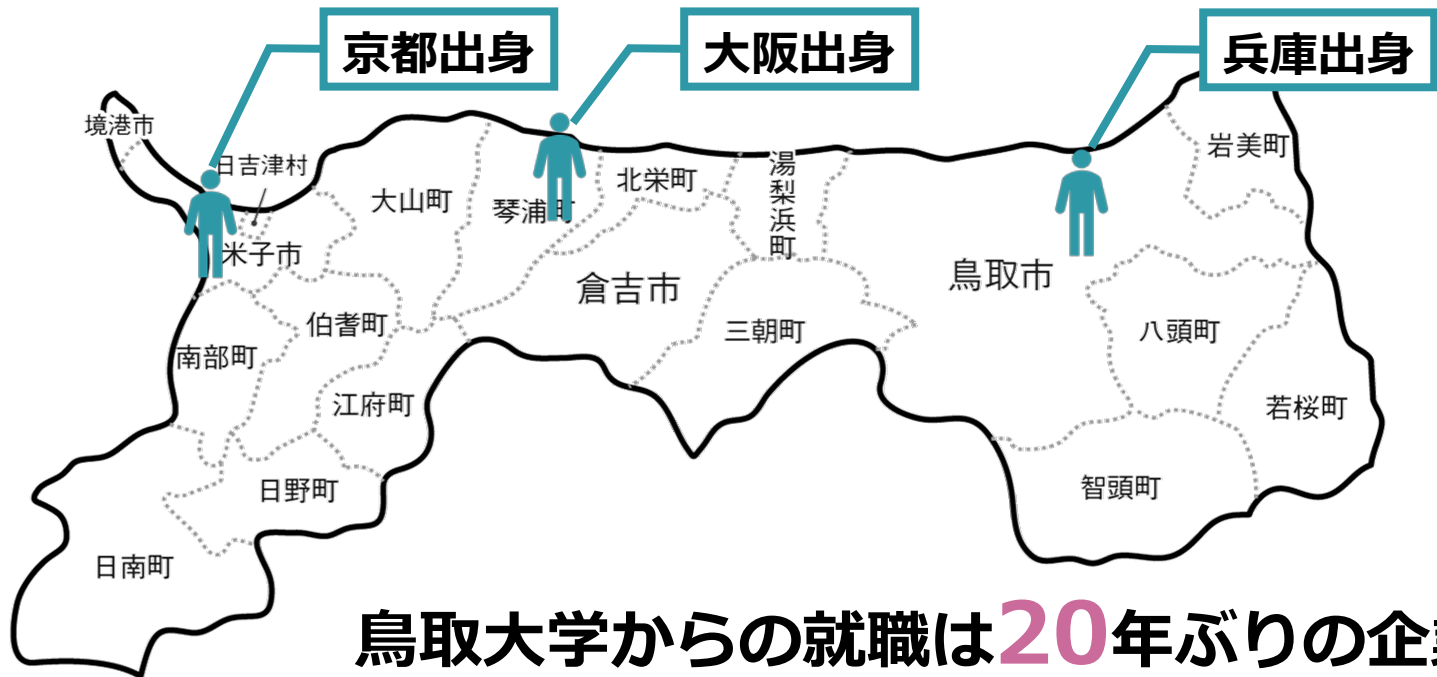


親睦会で最もたくさんの方が魅力を感じた

人の魅力が伝わればそれはその会社の魅力へとツナガります

実施分析 | 人と会社の魅力が就職に

ツナガードボクから県内建設業への就職者3名を輩出！！



鳥取大学からの就職は20年ぶりの企業も

実施分析 | 既存のインターンシップの課題

インターンシップ参加者と企業へのヒアリングから見てきた課題

参加者	<ul style="list-style-type: none">➤ 自宅と企業の往復での参加だったため地域に住んで働くイメージは掴めない➤ 鳥取就職を考えている学生としてはもったいない➤ 琴浦町で1週間生活できそのまま働きに行ける場所があればいいのに…
企業	<ul style="list-style-type: none">➤ 今までのインターンシップで参加していなかった学生にもインターンシップに参加してほしい➤ そのためにはより魅力的なインターンシップを計画する必要がある

地域と企業の魅力を知ることができる

インターンシップを設計できるとよい

実施分析 | 地方創生政策体験学習での体験

田中は鳥取大学の授業で琴浦町の移住定住政策を体験・学習

- 琴浦町が古民家を改修し運営しているお試し住宅「琴浦さんち」での宿泊体験
- 地域おこし協力隊へのヒアリング

自治体担当者から悩みの声も聞く

- お試し住宅の年間稼働率が31%
(コロナ前, コロナ後は利用停止)

「琴浦さんち」等有効活用できないか



展望 | 暮らすインターン

実証分析の 結果・課題	<ul style="list-style-type: none">➤ 人の魅力が伝わればそれはその会社の魅力へとツナガル ↑論文でも繋がり大切さが示された➤ インターンシップ等で企業の魅力等は伝わっている一方で 地域で暮らすイメージを持つことができない➤ 自治体もお試し住宅等の有効活用に課題を感じている
解決策	地域を知れる定住型インターンシップ



『暮らす』インターン

[暮らす体験]

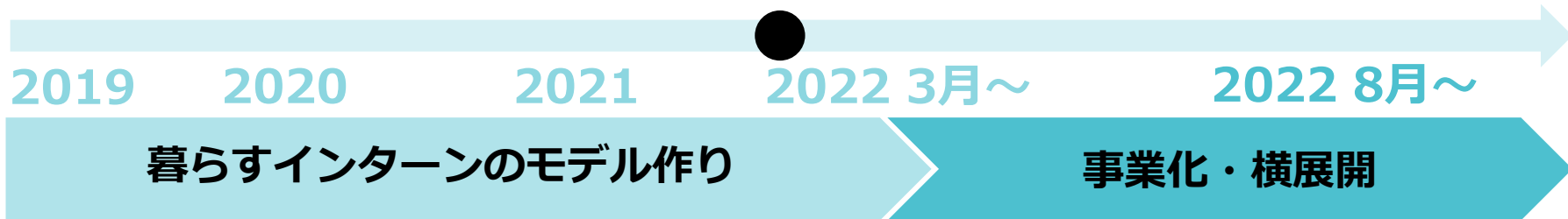
- お試し住宅を利用した定住体験
- 地域おこし協力隊と地域を知れるツアー

[働く体験]

- 1週間以上のインターンシップ

展望 | アクションプラン

現在地点

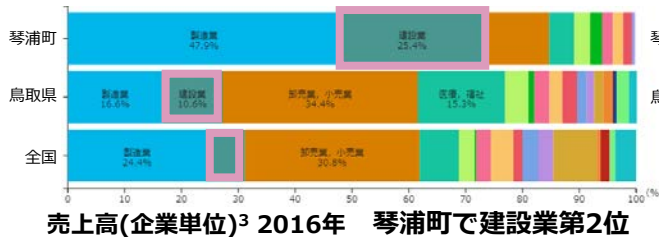
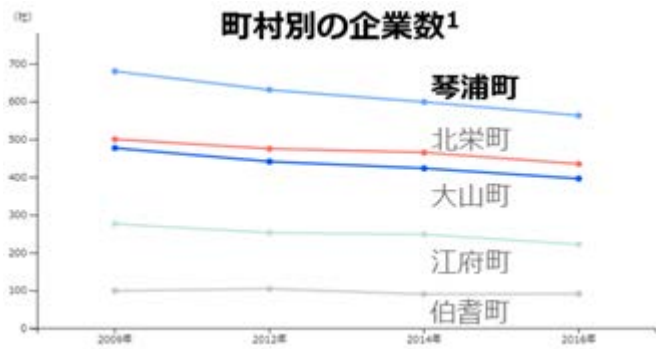


短期目標	中期目標	長期目標
<ul style="list-style-type: none">➤ 助成金を探す➤ 企業を探す➤ 活動認知➤ 県内企業とつながりをもつ	<ul style="list-style-type: none">➤ 就職実績➤ ツナドボメンバーでプレインターンを行う➤ 鳥取県・市町村・鳥取県中小企業団体中央会など関係機関と連携	<ul style="list-style-type: none">➤ 多様な鳥取学生の鳥取定着➤ 暮らすインターンの継続➤ 県外からも鳥取県に <p>建設業だけでなく他分野にも展開</p>

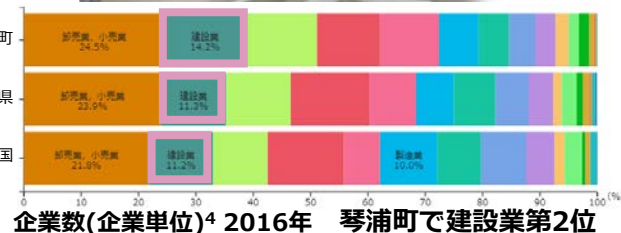
展望 | ロールモデルの地域と企業

琴浦町

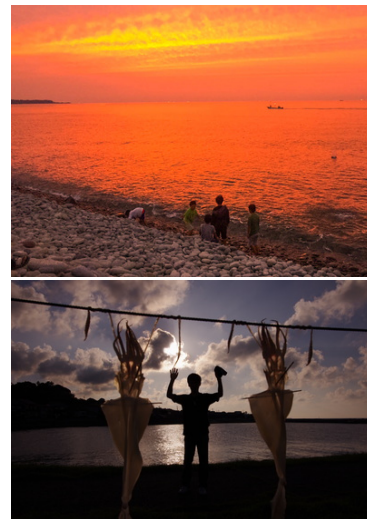
鳥取県内の町村別企業数で**No.1**



古民家を改修したお試し住宅²
地域の暮らしを体験しやすい



琴浦町の写真



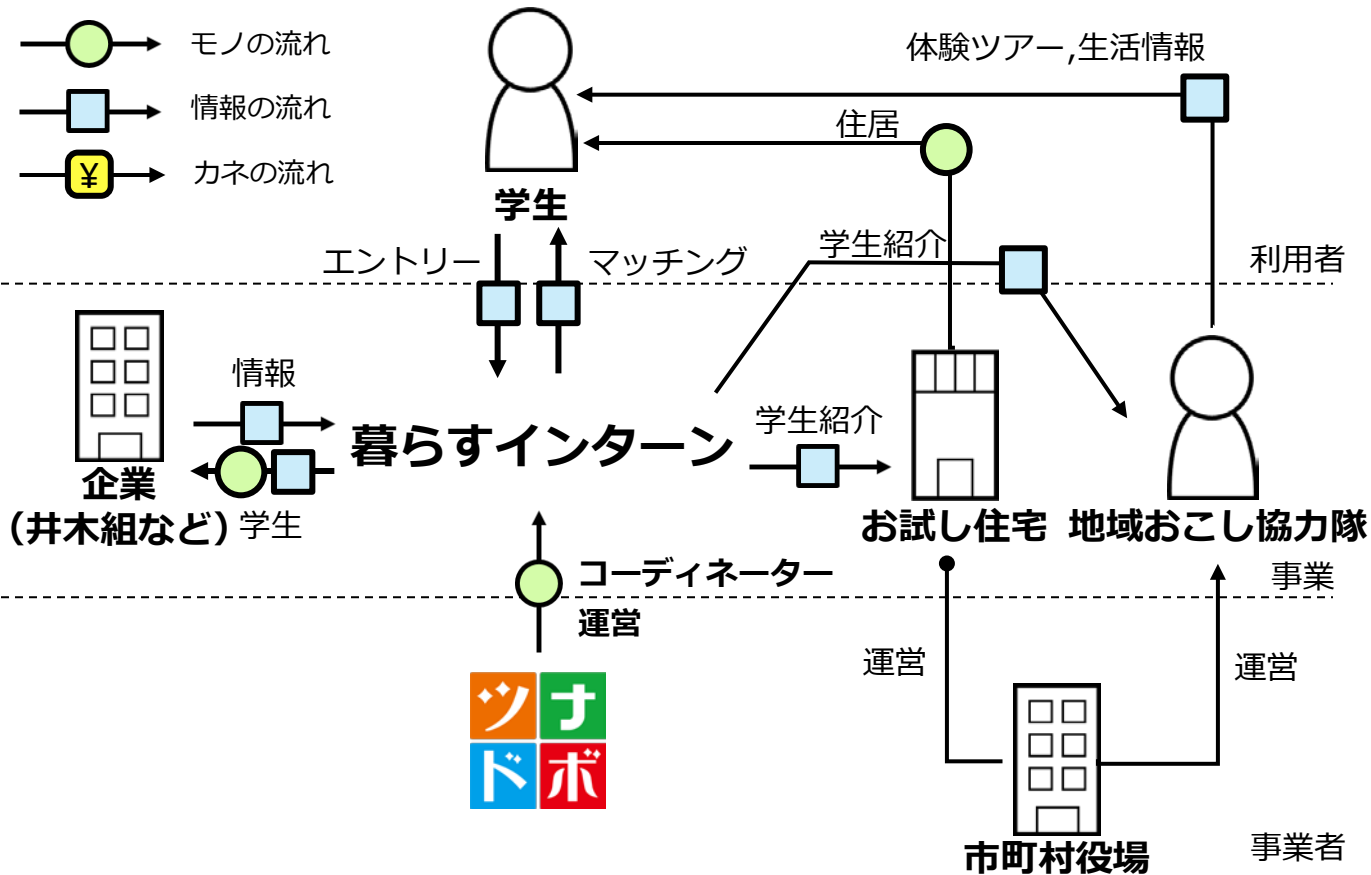
出典：1,3,4RESAS ²琴浦町提供

株式会社 井木組 琴浦町にある建設会社

県内トップクラスの売り上げを誇る建設会社、人手不足に悩んでいる…

そこで、ツナガルドボクと協力し、イベントなどを開き大学生との接点を増やしている

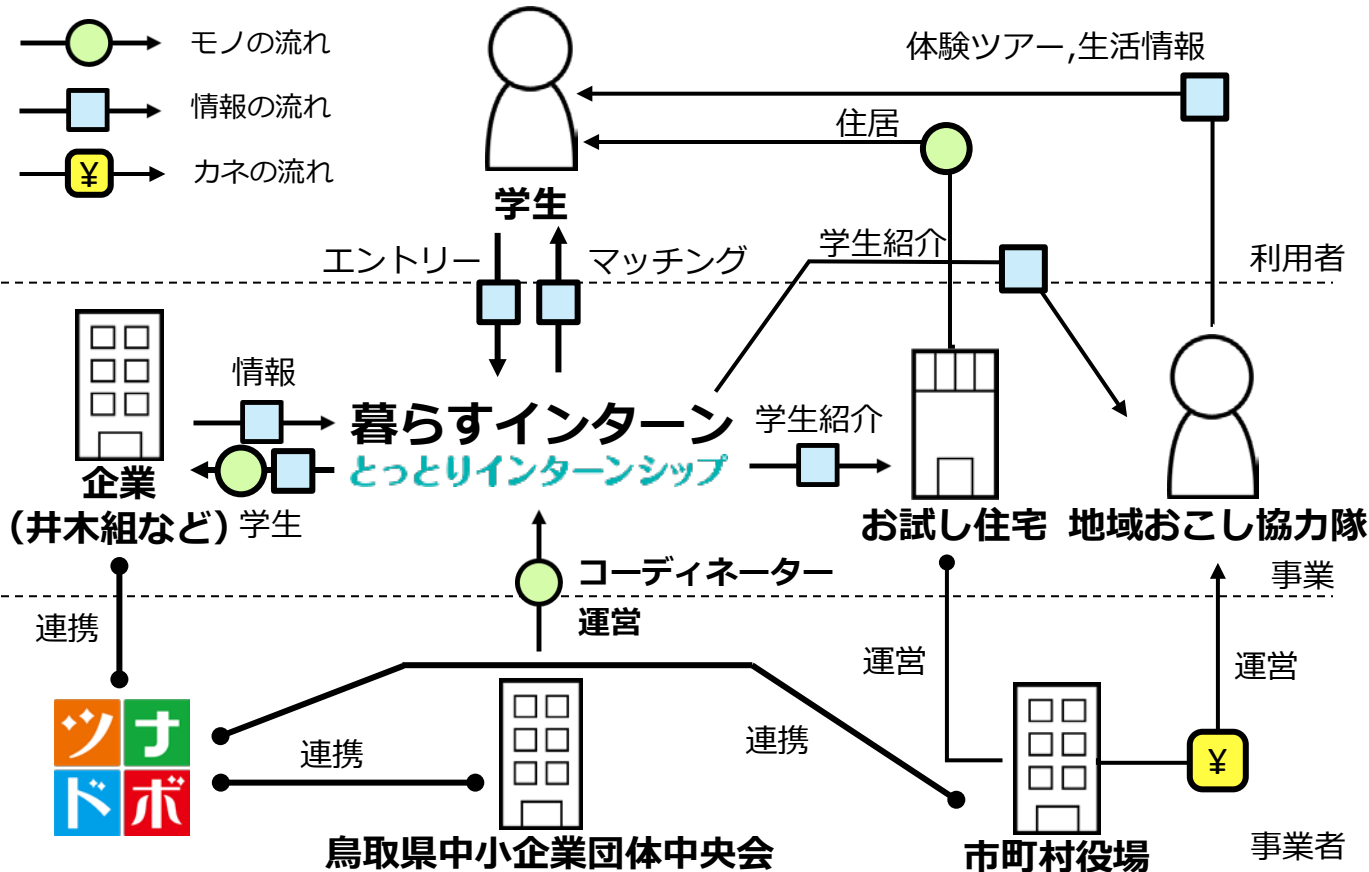
展望 | 暮らすインターンシップの運営方法



数値目標	
短期	ツナドボメンバーから5名参加(2022春) まずは井木組でプレ
中期	井木組で10名一般応募受け入れ (2022夏)

運営方法	
短期 中期	ツナドボが企業・琴浦町・中央会と主体的に取り組む

展望 | 持続可能な運営方法



数値目標	
短期	ツナドボメンバーから5名参加(2022春) まずは井木組でプレ
中期	井木組で10名一般応募受け入れ(2022夏)
長期	効果検証の後、琴浦町内の全産業を対象を拡大 将来的には全県へ...
運営方法	
短期 中期	ツナドボが企業・琴浦町・中央会と主体的に取り組む
長期	とっとりインターンの施策として鳥取県中小企業団体中央会に取り組んでいただきたい

展望 | 政策のメリットと定住した場合の効果

政策のメリット

学生	企業	地域
地域で働く・暮らすイメージが実感できる	参加により学生と接点を持てる 定住した場合は人手不足解消	お試し住宅の利用促進 地域内循環の創出

建設業の生産増加による経済波及効果

琴浦町の建設業に1人就職すると仮定

1人あたりの建設業の生産額：690万円¹

平成23年産業連関表[経済波及効果推計ツール]²

部門名	県内生産誘発額
建設	690
商業	33
運輸・郵便	40
対事業所サービス	49
その他	99
合計	911

単位：万円

定住した場合の効果（琴浦町）

経済波及効果分析ツール³を用いて、単身世帯が1年間に5人移住した時の琴浦町に与える事業効果（支出金額参考：鳥大生）を調べた

出典：¹ RESAS、² 鳥取県令和新时代創造本部、³ 環境省

産業名	直接効果	第1次間接効果	2次効果	効果の合計
食料品	4	1	0	5
宿泊・飲食サービス業	4	0	0	4
情報通信業	2	1	0	3
住宅賃貸業	81	0	0	81
合計				93

単位：万円

まとめ | RESAS等による課題と政策アイデア

1

RESAS等で
分かった課題



- 若者の県外流出
- 建設業の担い手不足



2

活動から
分かった課題



- インターンでは暮らす実感がわからない
- 学外との強いつながりが欲しい



3

政策アイデア



- お試し住宅を利用した定住体験
- 地域を知れるツアー
- 1週間のインターン

『暮らすインターン』とは
『**地域を知れる定住型**インターン』

目的

今までのインターンでは知れなかった
「**地域で働き、地域で暮らす**」という
具体的なイメージを持ってもらう

メリット

学生と琴浦町の**ミスマッチ解消**
定住者が増えれば企業の人手不足が
解消し、地域経済にも**好影響**

展望

鳥取県全県的な取り組みに！

鳥取で暮らす魅力が伝わればそれは鳥取定住へとツナガル

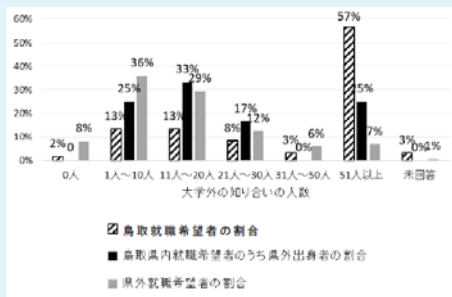
実施分析 | 人 to 会社の魅力の定量的分析

就職地域を決定する要因として

- 地元に着がある。その背景には、そこに住む家族や親しい関係にある人が多く存在する
- 「そこに住み続ける人とのツナガリ」が影響する。

鳥取県就職率が低い(希望する割合が低い)要因は

- 大学外部(鳥取県に住み続けている人)の**人との関わりが少ない**為
- 鳥取の魅力が伝わっていない、居続けたいと思われていない
- そもそも県内企業の**認知度が低い**



鳥取県内就職希望者と 県外就職希望者の知り合いの数の分布

鳥取就職希望者を増やすには

- 大学外にて**様々なコミュニティ**に所属する(ツナドボなど)
- 多くの知り合いをつくる
- 恋人や地元で劣らぬ強い関わりを持つ

などのことが有効である。

会社説明会や、就活フェスタなどのイベント参加によるツナガリは**一過性のものに過ぎない**。

そこで、実際に働いている人の雰囲気を感じることのできる鳥取県内企業の「**インターンシップ**」の現状をヒアリングしていこうと思う。

実施分析 | インターン参加者へのヒアリング

2020年3月に琴浦町にある井木組（地方建設業）のインターンシップに参加した先輩の声

インターンシップに参加して井木組という企業の魅力については知れた。しかし、自宅と企業の往復での参加だったためその地域に住んで働くイメージは掴めなかった。鳥取就職を考えている学生としてはもったいない。琴浦町で1週間生活でき、そのまま働きに行ける場所があればいいのに…
他のインターンシップではホテル泊での参加をしたが、寝泊りをするだけで、やはりその街に住んで働くイメージは掴めなかった。町のイメージだけでも掴んでおきたいと思った。



鳥取大学大阪府出身



インターンシップのイメージ



琴浦町のイメージ